

# 日本刀と倉吉の歴史

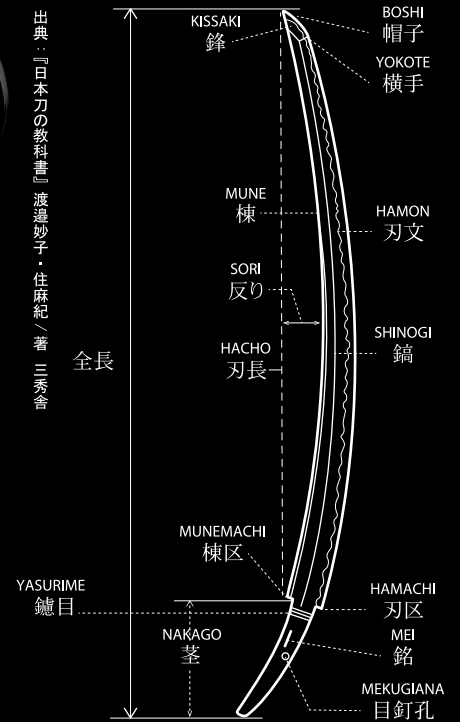
## 日本刀とは

日本刀は世界に誇るべき日本の文化財である。日本の刀剣の歴史は、古墳時代から始まったと言われている。初期の刀剣には反りが無く、ほとんどが直刀であった。反りのある現在のような形の日本刀がつくられるようになってきたのは平安時代中期以降となる。

古来から武器としての役割とともに、美しい姿が象徴的な意味を持つっており、美術品としても評価が高い物が多い。

## 日本刀各部の名称

日本刀は部分ごとに特有の名称がある。時代の変遷とともに、刀工によりさまざまに技術の工夫が凝らされており、各部のつくりと見どころを知ることが鑑賞のポイントとなる。



## 伯耆国は日本刀発祥の地 日本最古の刀匠 安綱

伯耆国（現在の鳥取県中西部）では、日本刀の原材料となる良質な砂鉄が採れたことから、たたら製鉄が盛んで、刀剣など鉄製品の名産地として広く知られる。

倉吉市は、伯耆国の国庁が置かれるなど、古くから経済的にも文化的にもその中心地として栄えてきた。

現在の日本刀の形が完成した平安時代中期の刀匠「伯耆安綱」は特に有名で、三条宗近（京都府）、古備前友成（岡山県）などと並び、個人名が特定できる最も古い刀匠の一人とされる。

安綱は、伯耆国出身とされ、その代表作でもあり、国宝にも指定されている「童子切安綱（どうじぎりやすつな）」は、天下五剣にも数えられる名刀として知られる。また、安綱の一門には真守、有綱、安家といった著名な刀匠がいるほか、多くの刀匠を輩出した。中でも安綱の子「真守（さねもり」「伯耆大原真守）」は、平家伝来の宝刀「抜丸（ぬけまる）」の作者と言われ、その一族の屋敷跡と伝えられる場所が、倉吉市大原に残る。

（出典：『私たちの大原』）

# DOJIGIRI YASUTSUNA

## — 童子切安綱 —

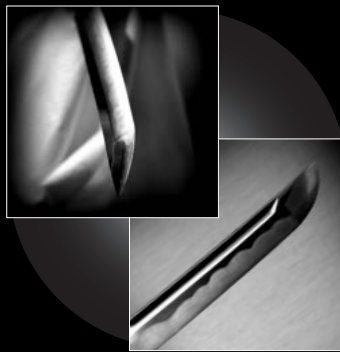
国宝 指定名称：太刀  
銘 安綱（名物童子切安綱）附糸巻大刀拵  
刃長 80・0センチ  
反り 2・7センチ

豊臣秀吉、徳川家康・秀忠が所持し、越前藩主の松平忠直に贈られ、のちに津山藩（岡山県）の松平家に伝わった。（現在は、東京国立博物館に所蔵されている。）

名前の由来は、源頼光が四天王を引き連れ、丹波大江山の酒呑童子の首を斬り落とした時の太刀とされていることから命名された。酒呑童子退治の逸話とともに広く知られている。

Image:TNM Image Archives  
「童子切安綱」東京国立博物館提供

# 日本刀のふるさと 伯耆国くらよし



鳥取県倉吉市

## 「日本刀のふるさと伯耆国くらよし」 ゆかりの地めぐりマップ



### — 日本を代表する国府遺跡 —

#### 伯耆国府跡 国庁跡・法華寺畑遺跡・不入岡遺跡

市街地の西側に広がる久米ヶ原丘陵の東端近くに、古代の地方政治の拠点であった伯耆国府跡がある。周辺には伯耆国分寺跡や法華寺畑遺跡、不入岡遺跡が位置し、これらの北側にある四王寺山には、貞観年間（859～877年）に朝廷の命によって建てられた四王寺跡が所在している。

古代の政治・経済・文化の中心的な施設が近接し、その内容がおおよそ明らかになっている例は全国的にも珍しい。

また、奈良時代初期の歌人山上憶良が、伯耆国の国司として赴任した地としても知られている。



## 引き継がれる鍛冶の伝統

### 廣賀一門の繁栄

室町時代末期、戦国時代に入り、刃りから江戸時代中期まで、廣賀（ひろよし・ひろが）と呼ばれる刀鍛冶集団が倉吉や津原で活躍した。

廣賀一門は大きく道祖尾系廣賀と見田系廣賀の2つの系譜に分けられる。両系譜とも、戦乱の世において戦国大名・武将の庇護（ひご）のもと、刀づくりを行ってきたが、江戸時代に入り徳川政権が確立され、太平の世が続くと、刀剣の需要も

廃れ、転業を余儀なくされた。また、これに加えて、武士が城下町に集められ、また物流も良くなったことから、刀鍛冶は大きな城下町や都市に移住し、倉吉での需要が減少した。

その後は、万人向けの打ち刃物、農具等を製作することが盛んとなり、幕末から大正にかけて「稲扱千歯（いなこぎせんば）」をもって全国に行商に出る者が多く、「（伯耆）倉吉稲扱千歯」の名が国中に知られることになった。

### 倉吉に残る「たたら」の文化

日本刀の素材は、日本古来の製鉄技術である「たたら」によって生産される和鉄・和鋼で、その品質は他に比類ないほど優れたものとされている。とりわけ、中国地方は日本国内で最も砂鉄の採取地に恵まれ、質も良く量的にも豊富なところであった。

伯耆国倉吉周辺では、市内岩倉、広瀬、三朝町（山砂鉄）、天神川系（川砂鉄）、北条砂丘浜砂鉄）が産地とされ、倉吉市南部に位置する関金地区では、たたら場跡（16カ所）、鉄穴流し場跡（6カ所）などが確認されている。また、中国地方のたたら師が信仰した「金屋子神」を祀る小さな祠が、鉄山師の屋敷近くや、たたら場の跡に現存している。



▲ 金屋子神祠

発行／倉吉市 企画産業部 商工観光課

〒682-8611 鳥取県倉吉市葵町 722 ☎ (0858) 22-8158